

会議名	7月 南ブロック会	<input type="checkbox"/> 全体会 <input checked="" type="checkbox"/> ブロック会 <input type="checkbox"/> 執行部会
開催日	平成24年 7月 27日(金) 14:00 ~ 17:00	
場所	介護老人保健施設 リハパーク舞岡	
参加者	阿久和鳳荘、グリーンワフ東戸塚、ケアポート・田谷、けいあいの郷西谷、港南あおぞら、コスモス、こもれび、湘南グリーン葉山、スカイ、ソフィア横浜、第三湘南グリーン、なぎさ、ぬかだ、能見台パートリア、ハートケア湘南・芦名、ハートケア横浜小雀、ふるさと、ほのぼの、やよい台仁、ユトリアム、横浜磯子、リハパーク舞岡、リハビリケア湘南かまくら 以上 23施設 27名 記録者 三島	
内容	<p>1. ブロック長挨拶 小林南ブロック長(ユトリアム)</p> <p>2. 北川療養長挨拶(リハパーク舞岡)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種協働に力を入れている点、在宅復帰率30%を達成している点等について話される。 <p>3. 在宅復帰に向けての事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5グループ(A～E)に分かれ、野島氏(ソフィア横浜)の進行のもと、グループワークを行う。 <p>【事例の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人(女性)は、比較的ADLは高いが精神科の通院歴があり、精神症状が顕著となり始めたのを機に入院→老健入所となる。 ・その夫は易怒的・自己中心的な面があり、妻の在宅復帰を強く希望している。 ・本人宅(マンション)の下階に長女が住んでいるが、上記のような両親の状況から、今後について不安を抱いている。 <p>*このような状況下で、相談員としてどのような援助を行うべきか(在宅復帰or施設継続も含め)、グループ内で方向性を導き出す。</p> <p>【検討①／各グループにてディスカッション&発表】</p> <p>『在宅復帰させるべきか or 施設生活を継続させるべきか』</p> <p>○ 在宅復帰派(4つのグループ)～その主な理由・留意点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅復帰時期に検討は必要であるが、施設での様子を見ながら、薬の調整・居宅ケアマネの人選等をする必要がある。 ・在宅復帰するにあたり、夫や長女のフォローをして行く必要がある。 ・本人や夫の意思を尊重し、在宅復帰を目指した方が良いのではないか。 ・在宅復帰し、その継続が困難であれば、施設へ再入所すれば良いのではないか。 	

内容

- ・在宅復帰する際は、夫に在宅サービスの利用を了承してもらう為の工夫が必要である(サービス利用に否定的である為)。

○ 施設継続派(1つのグループ)～その主な理由・留意点等

- ・夫が在宅サービスの利用に否定的である点・キーパーソンが誰なのか明確になっていない点等から、現状では施設継続が望ましいのではないか。

【検討②／各グループにてディスカッション＆発表】

『決定した方向性においての問題点・障害等について』

- ・家族間(本人・夫・長女)の関係性の調整が必要である。
- ・キーパーソンを確立させる必要がある。
- ・本人の病状(服薬状況含む)をフォローする必要がある。
- ・夫の介護力(家事等含む)がどの程度なのか。
- ・夫にどのように状況理解(本人の状態・サービス利用の必要性等)をしてもらうか。
- ・長女が抱えている不安をどのように解消させるか。
- ・在宅復帰した場合、居宅ケアマネはどのように介入して行くか。
- ・在宅復帰時期をいつ頃にするか。
- ・環境変化(老健→自宅)による認知症の進行に対する懸念がある。
- ・なぜ、夫がサービス利用に否定的なのかの理由を探る必要がある。

【検討③／各グループにてディスカッション＆発表】

『決定した方向性をどのような流れで実行するか(期間含む)』

○ 在宅復帰派の意見

- ・キーパーソンは長女とし、今後についての説明等(サービス利用含む)を行い、不安の軽減を図る。
- その後、夫にも説明・理解をしてもらった上で、居宅ケアマネを探す(3ヶ月程度を目途とする)。
- ・夫は医師との関係が良好との情報がある事から、医師からも今後について等の説明をしてもらった方が、より効果的なのではないか。
 - ・在宅サービスの利用等を条件のようにしながら、夫と在宅復帰の話を進めても良いのではないか。
 - ・長女の不安を解消する為に、何かあった時は、またいつでも施設に戻って来られるという旨を伝えておく必要があるのではないか。
 - ・居宅ケアマネも交えてカンファレンスを行い、夫や長女への説明・理解を図り、必要であれば、お試し外出・泊等も検討した方が良いのではないか。
- 夫がサービス利用に否定的であるが、必要最低限のサービスは導入できるように調整する必要があるのではないか。

内容

・状況によっては、地域包括支援センターにも協力を仰いだ方が良いのではないか。

○ 施設継続派の意見

・長女に協力を仰ぎながら施設生活を組み立て、外泊等をしながら満足感を充足して行く。

【検討④／各グループにて、ディスカッションを行う】

『決定した方向性について、他の専門職が方針に消極的or反対している場合、相談員としてどうするか』

・野島氏より、「老健の相談員としての自覚を持ち、その位置付け(役割)を意識した対応が望まれる。」という旨の話あり。

【野島氏より、このケースの現状について説明】

○ キーパーソンについて

・夫と長女の2人を一緒にキーパーソンとしている(共通の認識を持ってもらう為)。

○ 長女の不安感の軽減について

・何かあった時は、施設も協力するという旨を伝え、安心感を与えるよう働きかけている。

・医師からも、病状等を説明してもらう(薬の整理も検討中)。

○ その他について

・居宅ケアマネを探すにあたり、夫にも協力してもらっている(サービス利用に対する理解を促す為)。

→ その際は、水面下で事業所等へフォローの電話をしておくような配慮が必要である。

・現在、様子を見ているところであるが、施設継続の方向性になった場合は、グループホームも視野に入れている(薬の問題等の理由から)。

・在宅復帰の場合は、なるべく早い段階で実現させたいと考えている(施設生活に慣れてしまうと、在宅復帰が遠のいてしまう危険性がある為)。

→ 野島氏より、「相談員の考え方次第で、1つのケースに対して大きな影響を及ぼす事がある。やりがいがある反面、それなりの責任が伴うという事を認識しなければならない。」という旨の話あり。

4. 介護報酬改定についての情報交換(各グループに於いて)

5. リハパーク舞岡の施設見学(各グループ毎に)

6. ブロック長挨拶(終了時) 小林南ブロック長(ユトリウム)

以上

内容